
朝焼けに染まる

笹川 弘

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

朝焼けに染まる

【Nコード】

N3116Y

【作者名】

笹川 弘

【あらすじ】

オムニバス第一弾。いえい。

むしむしと暑苦しい夜だった。近頃テレビで堅苦しいスーツを着たオッサンが言っていた
ヒートアイランド現象とか、熱帯夜だとか、そんな言葉がぴったりな感じの。実に現代らしい
夏の夜だった。うだるような暑さに眠気を吹っ飛ばされた俺は家の近所の川原へ来ていた。

都内とはいえ、23区を外れてしまえばほとんど何もない。何もないという言い方は
いささか語弊があるが、住宅があちこちに建っているだけで、背の高い建物はあまり
見られない。深夜三時。明かりがついているのは街灯のみ。草木も、人も、空も、
寝静まってしまうているこの空間は、普段自分が住んでいるところには思えなかった。

「あれ、翼くん？」

自分を呼ぶ声が聞こえ、振り返る。

「神埼？」

何でこんな時間に女の子が一人で歩いてんだ。

「何でこんな時間に？」

「俺のセリフだから。つか、あぶねえだろうが。女の子が一人で

こんな時間にうるちよろすんな。」

「お父さんみたいなこと言っただね、翼くん。」

うふふ、と口元を抑えて笑う神埼。おいおい危機感皆無だな。もうちよつと自覚持て。

こんな事言っただけできつと、当の本人は聞く気もないだろう。神埼はランパンに

タンクトップといたいかにも部屋着な軽装だった。というか脚も肩も出すぎだろ。

それはさすがに冷えるだろ。いや、本当は俺が煩惱と戦ってるだけだけどさ。

「神埼。」

「なーに？」

「これ着てろ。」

自分の着ていた薄手のパーカーを少し雑に投げ渡した。神埼は一瞬きよとりとしたあと、

ふにやりと笑って「ありがとう」と言っただけでパーカーに袖を通した。男物だからなのか若干ぶかぶかとした感じがする。

「袖、長いね。」

「ああ、まあ……。」

「やっぱり翼ちゃんと私じゃリーチが違いすぎるもんねえ。」

「そりゃあ、そうだろ。」

「いーなあ、私ももう少し背が伸びてくれたらよかったのになあ。」

そう言っただけで足りない袖口をぶらぶらさせている神埼。少し眠たいのか目をこしこしと擦る。

コイツ本当に同じ年かよ、と半ば呆れながら目腫れるからやめろと

言いながら神崎の手首を掴む。

「翼くん？」

「なんだよ。」

「なんで、」

「ん？」

「なんで、呼んでくれないの？」

「何をだよ。」

「なまえ、」

「呼んでんじゃねえか。神崎って。」

「ちがうよ。なんで、ヒナって、呼ばなくなったの？」

神崎の方を向くと、神崎は目に涙をためながら俺を見ていた。

確かに俺とコイツは幼馴染だから、チビの時はコイツを名前え呼んでいた。

しかし月日は流れていくもので、中学上がる頃にはコイツの事を神崎と呼んでいた。

何がきっかけだったかなんて覚えてないが、気が付いたらこうだった。

「ねえ、」

「あ？」

「なんでヒナって呼ばなくなったの？」

俺はしばらく考えたが、何にも思い出せなかった。

「気が付いたら、だな。そもそも理由なんて覚えてねえし。」

覚えてないという事はさして重要な事でもなかったのだろう。そう伝えると神崎は

うつむいてしまった。なんだこのすごい罪悪感は。

「もう、ヒナって、呼んでくれないの？」

「・・・え？」

「翼くんは、ヒナって、呼びたくないの？」

涙を目にいつぱいためたまま、そう俺に問う神埼。目にたまった涙をこぼさないようにしている神埼を見ると、何とも言えない気持ちになった。

「・・・ヒナ。」

ぼそりと。決して大きな声ではないが、数年ぶりに呼んだ彼女の下
の面前。

「・・・泣くな、ヒナ。」

泣いてる女の扱い方なんて俺が知るわけない。彼女の溢れんばかりに涙がたまる目に
ゆっくり指を持っていく。涙袋のところに人差し指をあてると、ぼろりと一滴落ちた。

空は、白み始めていた。夜と朝が入れ替わる、この瞬間に。

（後書き）

オムニバス第一弾。いかがだったでしょうか。

深夜〜早朝クオリティなこの作品。あーあーあー気持ち悪いくらいに純愛。

とりあえずグダグダ感をお楽しみください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3116y/>

朝焼けに染まる

2011年11月15日15時40分発行